

会 議 録

名 称	令和 6 年度第 1 回市川市総合計画審議会
議 題	第1号 副会長の互選について 第2号 令和 5 年度第三次基本計画実施計画の評価について 第3号 基本構想等に係るいちかわの未来に向けたアンケート結果
そ の 他	基本構想について
開催日時場所	令和 6 年 7 月 29 日（月） 10 時 00 分～11 時 40 分 市川市役所第 1 庁舎 5 階 第 4 委員会室
出席者委員	江口 孝、太田 丈之、大場 諭、小高 正浩、影山 育子、 朽木 量、後藤 哲洋、小林 俊之、紺野 大輔、酒井 玄枝、 田中 幸夫、つちや 正順、藤井 敬宏、ほとだ ゆうな、 堀出 知弘、松永 鉄兵、松丸 陽輔、三沢 建吾、山極 記子、 山崎 文代 ※敬称略 計 20 名（欠席 2 名）
配 布 資 料	・資料 1 市川市総合計画審議会条例 ・資料 2 委員名簿 ・資料 3 次期総合計画策定スケジュール（令和 5～7 年度） ・資料 4 令和 5 年度第三次基本計画実施計画の評価について ・資料 5-1 基本構想等に係るいちかわの未来に向けたアンケート結果 ・資料 5-2 基本構想等に係るいちかわの未来に向けたアンケート報告書 ・資料 5-3 アンケート調査票一式 ・資料 6 基本構想について
特 記 事 項	

開会

○藤井会長：ただいまより、令和6年度第1回市川市総合計画審議会を開催させていただきます。

本日、事前連絡で2名の方がご欠席ということでございますが、半数以上に、ご出席いただいておりますので、市川市総合計画審議会条例第6条第2項の規定によりまして、本審議会は成立していますので、議事を進めます。

次に、会議の公開についてですが、「市川市における審議会等の会議の公開に関する指針」によりまして、審議会等の会議は、公開を原則とする旨が定められていることから、会議を公開とさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

○藤井会長：ありがとうございます。それでは、本審議会は公開とさせていただきますが、事務局にお伺いします。本日、傍聴希望される方はいらっしゃいますでしょうか。

○事務局：現在のところ傍聴人はおりません。

○藤井会長：それでは、以降、傍聴の方がいらっしゃるようであれば、ご報告いただければと思います。議事を進めます。次に、会議録についてですが、事務局が作成し、出席委員に内容を確認していただき、あらかじめ指名した署名人に署名をいただいています。例年、五十音順でお願いしていますので、今回は、後藤委員と田中委員に署名をお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

○藤井会長：それでは、本年度第1回目の審議会であり、このたび、新たに5名の方が当審議会の委員としてご就任されています。お名前をお呼びいたしますので、そのあとに一言ご挨拶をいただければと思いますので、よろしくお願いします。

まず、千葉商科大学政策情報学部 教授 朽木 量 様、お願いします。

○朽木委員：千葉商科大学の朽木です。不束者ではございますが、微力ながら頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

○藤井会長：ありがとうございました。学識経験者の枠になりますが、和洋女子大学人文学部准教授の小山 朝子 様も、就任されていますが、本日ご欠席となっています。

続いて、特定非営利活動法人市川市ボランティア協会 会長 山崎 文代 様 お願いします。

○山崎委員：市川市ボランティア協会 会長の山崎 文代です。微力ながら、頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

○藤井会長：ありがとうございました。続いて、市川市保育施設協議会 副会長 田中幸夫 様、お願いします。

○田中委員：市川市保育施設協議会 副会長の田中です。微力ながら、一生懸命務めさせていただきます。どうぞ皆様よろしくをお願いします。

○藤井会長：ありがとうございました。続いて、市川市農業協同組合 常勤監事 後藤哲洋 様、お願いします。

○後藤委員：後藤です。よろしくお願いします。ご連絡になりますが、本日から朝の「めざましテレビ」のプレゼントコーナーのプレゼントとして、市川市の梨を出しています。期間としては1週間ありますので、ぜひご覧になっていただければと思います。

○藤井会長：ありがとうございました。それでは議題に移ります。

議題

■議題第1号 副会長の互選について

○藤井会長：議題第1号「副会長の互選について」です。

副会長の選任につきましては、「市川市総合計画審議会条例」第5条の規定によりまして、互選ということになっていますが、どなたかご推薦等ありますでしょうか。

それでは、私から推薦してもよろしいでしょうか。これまで、千葉商科大学の小林教授に副会長を務めていただいていた。後任の朽木教授は、同じく千葉商科大学に務められ、市川市史編さん委員会委員、市川市住居表示審議会委員を務めているほか、市川市と千葉商科大学の包括協定の運営など、多くの見識と豊かな経験をお持ちであり、副会長にふさわしいと思います。

朽木先生に副会長をお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

○藤井会長：ありがとうございました。それでは、朽木副会長は副会長席へご移動願います。副会長に朽木委員がご就任いただきましたので、一言ご挨拶いただければと思います。

○朽木副会長：副会長に選任いただきました千葉商科大学の朽木です。私は、市内の5大学が連携してコンソーシアムを形成している大学コンソーシアム市川の推進委員長として、実務的な協議機関の長をやっており、最前線で学生、或いは教職員が地域とコラボしながら、地域の活性化のために、様々な活動をしていく機会をつくり出しているところです。また、こういう形で市川市総合計画審議会の委員にならせていただいたので、微力ながら、大学も含めて、地域の活性化に貢献できればと思っていますので、今後ともどうぞ

よろしくお願いします。

○藤井会長：ありがとうございました。前副会長の小林委員の時から、審議会の最後に総括をお願いしていましたので、朽木副会長にも、独自の観点で構いませんので、審議会の総括や所見、次回の審議会に繋がるような形でお願いできればと思っていますので、よろしくお願いします。

■議題第2号 令和5年度第三次基本計画実施計画の評価について

○藤井会長：続いて、議題第2号「令和5年度第三次基本計画実施計画の評価について」、事務局よりご説明をお願いいたします。

○染谷課長：それでは、議題第2号「令和5年度第三次基本計画実施計画の評価について」、ご説明いたします。

資料4「令和5年度第三次基本計画実施計画の評価について」の2ページ目をご覧ください。初めに、「(1)第三次基本計画 実施計画について」、ご説明いたします。本実施計画は、第三次基本計画で掲げるまちづくり「具体的な対策で 持続可能な未来につながるまちづくり」を実現するために、具体的な事業を定め、事業の進捗管理を行うものです。実施計画では、単年度ごとに事業の進捗管理を行うための数値目標であるアウトプット評価と、計画期間における施策や事業効果を評価するための評価指標であるアウトカム指標を設定しまして、計画の進捗管理を行います。今回は全体の計画期間の途中ですので、数値目標の評価であるアウトプット指標に対する評価となっています。

次に、「(2)評価の方法について」と「(3)評価の内容について」を併せてご説明いたします。評価の対象となる事業は、実施計画に記載されている61の重点課題対応事業となりますが、そのうちの一部の事業については、定量的に判断することが適切でない、数値目標の設定が困難であるため、数値目標を設定していない事業がありますので、評価の対象は57の目標となっています。数値目標ごとの計画値と実績値を比較することで、目標値に対する達成度を評価するとともに、事業ごとに計画事業費と決算額を比較し、執行割合を確認することで、進捗状況を把握しています。具体的に目標値に対する達成度は、計画値に対して、実績値が90%以上であれば、達成度を90点以上として評価A、80点以上90点未満であればB、70点以上80点未満であればC、70点未満であればDとする4段階評価を行っています。

続いて、「(4)数値目標の達成度と執行割合」について、ご説明をいたします。まず、数値目標の達成度ですが、全57の目標のうち、A評価が48個、B評価が7個、C評価が2個、D評価はありませんでした。計画事業費に対する執行割合については、計画事業費総額143億9,416万5千円に対して、決算額総額124億4,639万円となり、執行割合は86.5%となっております。

恐れ入りますが、次のページをご覧ください。「(5)令和5年度第三次基本計画 実施計画の全体的な評価」について、ご説明いたします。資料の円グラフですが、全57の目標のうち、A、Bの評価となった目標は55個であり、全体の約97%となっています。概ね事業目標が達成できたものと認識をしています。一方、C評価となった目標が2つ、約3%と

なりまして、これらの事業については、未達成理由等を精査しまして、今後検討を続けていきたく考えています。その下のグラフについては、基本目標別での評価の割合となっています。

恐れ入りますが、次のページをご覧ください。こちらは、57事業のうち、数値目標の達成度が110点以上の高評価となったものの一覧となっています。

続いて、次のページをご覧ください。こちらの資料以降、A－3の資料になりますが、別紙1－1から別紙1－3までは、基本構想に定めるまちづくりの基本目標ごとの分野別総括表となっています。別紙2－1から別紙2－5までが、事業ごとの詳細を掲載しています。

説明は以上でございます。

○**藤井会長**：説明、ありがとうございます。それでは、委員の皆様から事前にご意見、ご質問等がありましたでしょうか。

○**事務局**：事前のご意見等はございません。

○**藤井会長**：それでは、委員の皆様、ただいま事務局よりご説明いただきました内容について、ご意見、ご質問はありますでしょうか。

○**小高委員**：C評価とされた、別紙2－2の事業名「若年者等就労支援事業」について、伺います。数値目標の指標を相談件数とされていますが、相談件数が多い方が良いのか、少ない方が良いのか、判断が難しいところですが、市川市において、産業政策の効果により、多くの雇用が創出され、相談する必要がなくなった場合は相談件数が少なくなるかと思えます。その場合でも評価Cにするのか、或いはより良い評価にするべきではないかという考え方もあるかと思いますが、今回の評価はどのような観点で評価されていますでしょうか。

○**染谷課長**：委員のおっしゃるとおり、多い方が良いのか、少ない方が良いのかは、非常に難しい判断だと思います。本事業は計画値である相談件数90人に対して、実績は64人であったため、C評価となっています。担当部署と連携しながら、事業を進めていますが、計画値の90人に達しなかったものの、相談者のうち14名が就職されたなど一定の評価ができていると考えています。また、相談件数の64人ですが、相談場所は複数あり、相談場所によって相談件数が偏っていることから、それぞれの地域に潜在的に困っている方がいるのかを含めて、今後精査していかなければいけないと考えています。

以上でございます。

○**小高委員**：ありがとうございます。背景まで分析されていることがわかりました。

○**藤井会長**：市川市の就職に対する被就労者の割合をもとに、どの程度の相談があるだろうかと、明確な背景をもった計画値の設定がなされた方が、就労環境の改善状況も見えてくるかと思えます。その他、ご意見、ご質問はありますでしょうか。

○江口委員：詳細に整理していただき、ありがとうございます。別紙２－３の事業名「排水路整備事業」において、決算額０円に対し、数値目標の整備延長９mは達成していることについて、ご説明をお願いします。

○染谷課長：こちらは、令和５年度に支出する予定であった前払金について、令和６年度での執行となったため、事業自体は進んでいます、決算額０円になったものです。
以上でございます。

○藤井会長：毎年、このようにアウトプット指標を確認しながら、全体の事業がどのように進捗しているか、また、最終的にはアウトカム指標で評価していきます。市の計画がどう進捗しているかを常に確認していくことが重要となりますので、都度、何かご指摘がありましたら、いただければと思います。それでは、本議案について、審議会として承認するということよろしいでしょうか。
(異議なし)

■議題第３号 基本構想等に係るいちかわの未来に向けたアンケート結果

○藤井会長：続いて、議題第３号「基本構想等に係るいちかわの未来に向けたアンケート結果」について、事務局よりご説明をお願いいたします。

○染谷課長：議題第３号「基本構想等に係るいちかわの未来に向けたアンケート結果」について、ご説明いたします。

資料５－１をご覧ください。まず、調査の目的についてですが、本調査は、次期総合計画を策定するにあたり、本市の将来都市像やその実現に向けて取り組むべきことについて、市民の皆様の意向を把握し、基礎資料として活用するために実施をしたものです。

次に、調査の概要について、１８歳以上の市民２,０００人を住民基本台帳から無作為抽出し、アンケート調査票を郵送にて配布することによって実施しました。回答率については、３８.９％となっておりまして、過去に実施してきたアンケート結果等と同程度となっています。

それでは、調査結果について、ご説明いたします。はじめに、現在の市川市の魅力について、下段の棒グラフのとおり、「交通の利便性が良い」が突出して多く、７４％となっています。次に、「健康に暮らせる」が２３.４％、「犯罪や交通事故が少ない」が１５.７％、となり、その他、「景観が良い」や「歴史や伝統を大切にしている」また、「都会的」、「公園が充実している」などの回答が１割程度となっています。

続いて、本市への愛着についてです。資料の右上をご覧ください。約８６％の方が「愛着を感じている」と回答をいただきました。この「愛着を感じている」理由ですが、「長く住んでいる」が３７.２％と最も多く、「暮らしやすい」が１１.８％、都内へのアクセスが良いなど「道路交通に関すること」が１０.９％となります。また、「愛着を感じない」と回答した方の理由としては、狭くて、不便な道が多いなど「道路交通に関すること」が１２.７％、「長く住んでいない」が９.８％、「特色がない」が７.８％となります。

続いて、住みたいまちの要件についてです。「買い物に便利」が４９.７％と最も多

く、約半数を占めています。次に、「治安が良い」や「道路交通が便利」が3割以上となります。

次に、定住意向に関する調査についてです。これからも市川市に住み続けたいかという問いに対して、90%の方から「住み続けたい」と回答をいただきました。その理由は、「長く住んでいる」が13.1%、都心へのアクセスなど「交通道路交通に関すること」が11.8%、「暮らしやすい」が5.4%となっています。一方、「住み続けたくない」と回答した方の理由は、道路が狭いなど「道路交通に関すること」が最も多く22.7%、「移りたいまちがある」が16.6%、「災害への心配」が7.5%となります。先程ご説明しました本市への愛着と同様に、「長く住んでいる」や都市へのアクセスが良く暮らしやすいということが、市川市の愛着や定住に繋がっていると考えられます。

続いて、将来への展望についてです。次のページ、「(2)将来(2050年)への展望について」をご覧ください。日本や社会を取り巻く課題として、「少子高齢化による社会保障費の増加」が60%と最も多く、次いで「大規模な自然災害による被害」が39.3%、「老後の生活の質の低下」が31.9%となっています。

次に、将来都市像に関連する、将来、市川市をどのようなまちにしたいかという問いに対して、「健康に暮らせるまち」が36.4%、「災害に強いまち」が33.8%、「社会保障が充実したまち」が29.2%となっています。その他、「高齢者に優しいまち」、「犯罪や交通事故が少ないまち」、「子育てしやすいまち」や「交通の利便性がよいまち」が2割程度ありました。現在、市川市では、「健康寿命日本一」を旗印に施策を進めているところですが、今回いただいたご意見を参考に、今後将来像を検討していきたいと考えています。

続いて、現在、市が取り組んでいる施策についてです。資料の右側のグラフをご覧ください。縦軸に施策の優先度、横軸に施策の満足度とし、エリアを4分割することによって、今後どの分野に力を入れていくべきかを判断するポートフォリオ図と呼ばれるものです。左上の部分のエリア1は、施策の満足度が低く優先度が高く、今後、力を入れていく必要があるエリアとなっています。「交通安全」、「社会保障・住まい」、「危機管理」、「高齢者福祉」、「子供の教育」などが該当します。エリア2については、優先度も満足度もそれぞれ高く、現状維持すべきエリアとなっています。エリア3については、優先度も満足度も低く、今後改善を検討していく必要があるエリアになります。エリア4については、優先度は低い、満足度が高く、現状維持もしくは見直しが必要なエリアとなります。これらの結果については、次期基本計画や実施計画などの施策や事業レベルで参考にさせていただこうと考えています。

続いて、3ページ目をご覧ください。前回の審議会にて委員の皆様より、将来の市川市の主役となる中学生や高校生にも同じ内容でアンケートを実施すべきではないかのご意見をいただきましたことから、中学生高校生向けに同様の内容でアンケートを実施し、そのアンケート結果となっています。中高生向けアンケートについては、市内の高校15校、中学校21校を対象に、QRコード付きのチラシを学校経由で配布しまして、オンラインでの回答をいただきました。回答数は、高校生が665名、中学生が2,146名に、ご協力をいただくことができました。なお、高校生については、回答者の約半数が市外居住者となっています。

次に、調査結果をご覧ください。各質問項目について、先程ご報告しました一般向けアンケートの結果を大人とし、回答結果の上位5つを比較した結果、大人の回答とは異なる

部分を黄色の線で示しています。

初めに、市川市の魅力についてですが、大人の回答と比較し、高校生中学生のアンケート結果では、最大でも15%とばらついていましたが、「健康に暮らせる」や「交通の利便性が良い」がそれぞれ1位と2位となり、3位以降については、高校生が「子供の教育が充実している」、「公園が充実している」、「都会的」といった回答、中学生が「公園が充実している」、「スポーツに触れ合える」、「子供の教育が充実している」を市川市の魅力として、上位となりました。

次に、市川市の愛着についてですが、高校生は市外居住者が約半数を占めていることから、62%となりましたが、中学生については、一般のアンケートと同様に、85%が愛着を感じていると回答がありました。

次に、住み続けたいまちの要件についてですが、大人と同様に、「買い物に便利」が最も多くなっています。一方で、高校生と中学生ともに、「娯楽施設や飲食店が充実している」、高校生は「家族や親戚と同居できる」、中学生は「災害に強い」が住み続けたいまちの要件として、上位に挙がっています。

次のページをご覧ください。次に、これからも市川市に住み続けたいと思うかという問いに対して、高校生は市外居住者が多いことから43%、中学生については81%が住み続けたいと回答しています。将来の日本や社会を取り巻く課題については、大人と同様の項目が上位に挙がりましたが、高校生と中学生ともに、「犯罪の増加や、治安の悪化」、中学生については、「子供の学力低下」を課題と感じているということがわかりました。

最後に、将来の市川市の姿についてです。大人の回答と同様に「健康に暮らせるまち」が最も多くなっています。一方で、「子育てしやすいまち」や「一人一人の個性が尊重されるまち」が上位に挙がっています。中学生・高校生のアンケートをもとに、今後の25年後に市川市の主役となる若年層の意見をしっかりと収集しまして、今後基本構想等を策定するうえで、貴重なご意見が得られたと考えています。

なお、資料5-2については、性別、年代や地区ごとの集計のほか、クロス集計を行うなどより詳細な分析を行った報告書になります。次に、資料の5-3については、実際のアンケート調査票となります。

説明は以上でございます。

○藤井会長：説明、ありがとうございます。それでは、委員の皆様から事前にご意見、ご質問等がありましたでしょうか。

○事務局：本日欠席されている小山委員からご意見をいただいていますので、読み上げさせていただきますと思います。次世代の市川市のまちづくりの中心となる中高生の将来(2050年)の市川市のアンケート回答を見ると、1位の「健康に暮らせる」を踏まえて、「子育てしやすい」、「一人一人の個性が尊重される」に関心を持っていることから、未来に繋がる前向きなビジョンを持っている点で、施策、事業の効果があつた結果を得られたのではないかと思います。このビジョンは、こども家庭庁においても大切な事項のビジョンとなっていることから、今後より具体的な施策につなげていくことを期待します。とのご意見をいただいています。

以上でございます。

○藤井会長：それでは、委員の皆様、ただいま事務局よりご説明いただきました内容について、ご意見、ご質問はありますでしょうか。

○松丸委員：前回の審議会にて、中高生に対するアンケートの実施を提案しましたが、このようなサンプル数も多く、質の高いアンケートを実施していただき、ありがとうございます。その中で、いくつか意見があります。

まず、今後の計画策定に向け、取り込んでいく旨の説明がありましたが、どういう手法かはわかりませんが、中高生に対し、こういう意見をもらったからこういうふうに繋がりましたよという途中経過をお見せするなど、皆様の意見がまちづくりに繋がってますよ、一緒に作ってきたんですよとわかるような機会を作っていただきたいと思います。

次に、高校生の回答のうち市外居住者が半分でしたが、とても貴重な意見であり、今後の大学進学や就職などもありますので、市川市の魅力を今のうちに知っていただくのも重要かと思います。

最後に、日本や社会を取り巻く課題について、大人と中高生とでは異なるアンケート結果となり、中高生は治安の悪化や子育てに対する不安などが挙げられ、大人だけでは得られなかった結果であり、総合計画の策定だけではなく、市の様々な施策や事業に有効活用されると良いと思います。

○染谷課長：貴重なご意見、ありがとうございます。まず、結果を示していくことは非常に重要なことであり、自身が参加できているという意識を持っていただくことも非常に重要だと思いますので、時期などを見極めながら、示していきたいと考えています。

次に、市外居住者の高校生に市川市の魅力を知っていただくことは非常に重要であり、また、市外からの目線というのもやはり重要だと考えていますので、大切にしていきたいと思っています。

○藤井会長：高校生の市内在住者だけを見ると、「住み続けたい」が80数%と非常に高く、高校生の市川市に対する愛着が高く感じます。また、魅力の発信についても、他からどう見られているかが非常に大事になってきます。

○ほとだ委員：今回のアンケート結果は興味深く、私が思っていた市川市の魅力とは少し違う部分がたくさんあり、例えば、現在の将来都市像「ともに築く自然とやさしさがあふれる文化のまち いちかわ」にある「文化」というキーワードが出てきませんでした。都会的な部分がフューチャーされ、大人も中高生も市川市の魅力が文化というよりも、都会的な部分に魅力を感じている方がすごく多いと感じました。このことについて、どのように考えていくか、大きな指標や方向性になるかと思います。次期総合計画を策定するにあたり、文化をより盛り上げていく事業を考えていくべきなのか、或いは都会的な部分を市川市の売りにしていくのかを考えていかなければいけないと感じるアンケート結果でした。

以上でございます。

○藤井会長：「文化」には地域が継承する「文化」、都市型で新しく創造していく「文化」、芸術や環境系、創造系の「文化」など、どこに力点を置くかによってだけという

か、「文化」の意味合いが変わってきます。そういった意味では、都市型の文化も良いのではないのでしょうか。また、東西南北など市川市内の特徴的な配置によって、文化の位置付けが大きく違ってくることもありますので、次期総合計画では、市川市の目指す文化は何かも検討していただければと思います。

○大場委員：今話題になりました「文化」に関連しますが、資料5－1の調査結果における市川市の魅力について、「健康に暮らせる」や「犯罪や交通事故が少ない」、「治安が良い」など、時間軸の長いことに対して非常に関心があることがわかりました。この時間軸が長いこと、例えば治安ですが、警察の方が頑張っただけで全て良くなるわけではないと思いますので、この「治安が良い」と体感的に感じるまちはどのようにして創られたのか、それは、市川市が長く文化を培うとともに、定住長年、地域づくりを行ってきたからだと思います。今回のアンケート結果では、今生きている、生活している方の体感であり、学生や社会人、子育て世代によって感じることは異なり、子育てが終わり生活が変われば、感じることも違ってきます。そのため、今回のアンケート結果を政策や目標に反映すべきことと、治安が良くなっている背景や住みやすいという背景は分けて整理し、次期総合計画を検討していただきたいです。資料5－2の29ページに記載のポートフォリオ図について、エリア4に「文化的資産」、「文化・芸術」が記載されていますが、市民から見た優先度は高くないとされているのは、今回の調査結果であり、体感的なものかと思います。ただ、市川市内の地域によっても、文化芸術を感じる地域の方もいます。今回のアンケート結果から見ますと、真間や菅野地区に居住されている方は、文化を享受されているように見ることができます。

今では、地域のお祭りや盆踊りなどの催し物が開催されていますが、東日本大震災により、コミュニティが崩壊しました。これを立て直すために、国は令和5年3月24日に「文化芸術推進基本計画（第2期）について」を閣議決定し、「文化芸術は、人々の創造性を育み、豊かな人間性を涵養するとともに、人と人との心のつながりを強め、心豊か多様性と活力のある社会を形成する源泉となるものである。」と前文に明記されました。

「文化・芸術」は、重要であると改めて認識しました。また、市川市名誉市民である式場隆三郎さんは、山下清さんの芸術活動を支え、また、ゴッホを日本中に広めるなど、市川市は永く「文化・芸術」の重要性を享受してきました。次期総合計画の策定にあたって、今回のアンケート結果による事業仕分けのようにするのではなく、アンケート結果はアンケート結果とし、市川市の魅力を分析し、維持していくことが重要ではないかと思います。

○染谷課長：委員のおっしゃるとおり、アンケート結果が全てではないことは認識していますし、アンケート報告書の市川市の魅力を地区別に見ますと、「菅野・須和田」では、「文化・芸術を感じられる」と2番に多い回答をいただいています。こういった地域別のご意見など報告書の内容を分析し、検討していく必要があると考えています。

○藤井会長：「文化的資産」、「文化・芸術」について、ポートフォリオ図における満足度の評価を見ると、30ポイントを超え、満足度は高くなっています。一方、今後の施策の優先度を考えると、どうしても生活中心の「防災」や「安心して暮らせる」といったところが注目されやすくなります。時間軸の長いもの、例えば自然生態系を維持していくなど

は、すぐに効果が出るものではなく、同様に、「文化・芸術」も時間軸が長いものになります。このように、私たちの暮らしに直結するもの、将来の市川市としてポテンシャルを高めるもの、次期総合計画ではどこに重きを置いていくかも検討していかないといけないかと思います。

○**つちや委員**：資料５－２の29ページのポートフォリオ図をお願いします。障がい者福祉について、優先度が高く、満足度が少し低いと感じました。中高生のアンケートにおいて、病や障がいなど特性がある方の声を拾う実施方法であったか伺います。

○**染谷課長**：アンケートの対象者は、無作為抽出した方への郵送ですので、障がいをお持ちの方だけに直接お送りするという取り扱いはしていません。

○**つちや委員**：もし、次アンケートを実施する際は、そういった団体や学校、病院等でご回答をいただける方を対象にお送りすることも検討しても良いかと思いました。大場委員もおっしゃいましたが、今回のアンケートは、今この瞬間だけの感想的なアンケート結果になっている部分もあり、中高生や自分自身、家族も含めてどうなるかわからないので、こちらから配慮して、アンケートを実施できたら良いのではと感じました。

○**藤井会長**：資料５－１の２ページのポートフォリオ図において、「子どもの教育」を見ますと、満足度が低く、優先度が高くなっています。親御さんを含め、関心が高いことが伺えますが、中高生のアンケート結果を見ますと、「子どもの教育が充実している」という回答が多く、「子どもの教育」において、子どもは満足している、一方、大人は満足していないという興味深いアンケート結果となっています。子ども達は、将来に向かって、一人一人の個性を尊重されるまちになって欲しい、将来はやはりきちんと成り立つ社会を作って欲しいなど、教育一環としての方向性を感じているかなと思います。子どもと大人のギャップをどのように捉えていますか。

○**染谷課長**：中高生のアンケートについては、事務局にて分析したうえで、結果を示しています。会長がおっしゃるとおり、子どもは大人との意見が違うところもあり、事務局としても、興味深くアンケート結果を見ています。教育については、親の世代が受けてきた教育と時代が変わり、現在行われている教育の形が世代間で異なってきたり、そのような違いが形として少しずつ出てきたのかなという感想は持っています。このギャップをどのように埋めていけばいいのかは今後検討しなければならないと思っています。

○**藤井会長**：確か前回の審議会かと思いますが、基本構想などの枠組みの中で、教育がやはり一番大事であるとのことがありました。教育の位置付けをどのような方向性で示すのか、また、時代の中で変わるものだけでも、方向性としては、多様性含めた様々な視点の中で教育の場が広がるので、次期総合計画の位置付けをどう着地させるのか検討していただきたいと思っています。

また先程、大場委員よりご発言がありましたが、ポートフォリオ図を見ますと、「地域コミュニティ・市民活動」は満足度が低く、優先度も低い結果となっています。こちらも以前より自治会の加入率が低いという、市川市の特徴でもあります。阪神淡路大震災や

東日本大震災のときなど震災があった時は、地域での防災意識は少し向上しますが、時間軸が長くなればなるほど、自治会活動がどんどん衰退してしまうという現状があります。そのような中で、満足度も低く、優先度も低いという市民意識を上げない限り、自治会を含めた地域活動に繋がってこないのではないのでしょうか。そのためには、難しいとは思いますが、具体性を持った施策を展開しなければならないと思います。もちろん、各委員の皆様のご協力も必要になりますが、事務局として、地域活動を含めたコミュニティの問題について、ワークショップのグラフィックにおいても、キーワードとして記載されていましたが、今現在、何かお考えがあれば伺いたい、また今後検討していただきたいと思っていますところですが、いかがでしょうか。

○**染谷課長**：非常に難しい問題であると認識しており、具体的な施策等についてはお答えできることはありませんが、例えば、災害や防犯などの地域活動に対し、補助金を交付するなど様々な事業は進めているところですが、中々広がらないというところが非常に課題だと感じていますので、担当部署と協議していかなければならないと考えています。

○**藤井会長**：このような質問した理由は、次期総合計画を策定していくにあたって、基本構想としての市川市の思いを皆様に考えていただきます。その中で、具体的な施策のメニューへブレイクダウンしていかななくてはならない、各委員の皆様方にお考えいただきたい、難しいところについてもお力添えいただきたいという思いで、お伺いしました。

その他、ご意見、ご質問はありますでしょうか

○**江口委員**：アンケート結果を見て素晴らしいと感じたことは、「市川市に愛着を感じています」が86%、「これからも市川市に住み続けたい」と思う方が90%いらっしゃることであり、こういう自治体は本当にないのではと思うぐらい、素晴らしい結果が出ています。様々なご意見はありますが、その中でも市川市の魅力は「交通の利便性」が良いという声が多くあります。一方、交通があまり便利でない地域にお住まいの方は、住み続けられないという意見があるとわかりました。都市を活性化するためには、まず、交通の利便性を良くすることが一番重要だと感じました。そういう中では、先程「文化・芸術」についての話がありましたが、交通の利便性が良ければ、市内に文化的なものがあっても、例えば東京の文化、美術館などの文化的な施設に触れることができれば良いのではないかと、また、買い物においては、日常的な買い物は近くのスーパーマーケットでできるが、銀座、渋谷などの東京都に行きやすいという利便性が市川市にあると感じました。

私自身がガス会社に勤めていますので、切実に思ったことは、市民の方は防災に対する意識を持っているということです、地震、水害、台風含めた昨今の自然災害が激甚化していることを、市民も様々な場面で感じているように思いますし、また、優先順位も非常に高く、弊社としても改めて、防災などに取り込んでいく必要があると感じています。

○**朽木副会長**：疑問に思うところがありますので、事務局側のご意見をいただければと思います。第三次基本計画の15ページをご覧ください。若い世代の転入と子育て世代の転出とありますが、10代後半から20代前半は大幅な転入超過があり、そして、子育て世代になると、転出超過が目立っているというデータが出ています。子育てが始まると、市川市は住みづらく、転出してしまうということは指摘されていますが、大学コンソーシアム市川

の中期計画を作る過程において、状況を調査した結果、この30代の転出超過と20代という転入は1980年代から永遠にずっと続いている課題であり、なかなかその変化が見られない、定番の問題になっている感じがしました。一方、資料5－1の2ページのポートフォリオ図を見ますと、現在の満足度が高く、優先度の高いエリア2に「子育て」があるにもかかわらず、転出超過が止まらないことについて、何か理由があるのではないかと考えはありますでしょうか

○**染谷課長**：非常に難しい問題だと認識しています。やはり都心に近いという立地により、若い世代が大学入学のタイミングで、大学の近くに住むなどの転入が多く、その後家庭を持たれて、お子様など家族が増え、住まいを検討するにあたって、本市の地価では住み続けることは難しくなり、転出されるケースが多いと認識しています。本市に魅力があると感じている方が非常に多く、その方たちの定住に繋げていく施策というのが大事であると考えています。

○**藤井会長**：非常に難しい問題ですが、高校生のアンケート結果の中に、住みたいまちの要件のうち「家族や親戚と同居・近居ができる」が上位にありました。高校生が社会に出る前に今後家族と一緒に住めないと認識しているということがわかります。この課題が永遠の課題にならないように、次期総合計画では何とか一つずつでもシフトしていけるように、具体的な施策メニューを検討する際に、皆様のお知恵をいただければと思います。

その他

■その他 基本構想について

○**藤井会長**：続いて、その他「基本構想について」、事務局よりご説明をお願いいたします。

○**染谷課長**：それでは、その他「基本構想について」、ご説明いたします。資料6をご覧ください。はじめに、次期総合計画の全体像となる構成案について、ご説明いたします。

昨年度の審議会でもご審議いただいたとおり、次期総合計画は、現行の総合計画と同様に、基本構想、基本計画、実施計画、この3つからなる3層構造とする予定で検討を進めています。

まず、最上位の基本構想は、計画期間を25年間とし、市民と行政の共通の目標を定めるものです。その下の基本計画は各施策、さらにその下の実施計画で各事業を定める予定です。最上位の基本構想で定める将来都市像については、次期総合計画で目指すまちの姿であり、総合計画の根幹となりますので、今後はまず、この部分の検討について進めていきたいと考えています。

続いて資料2ページの上段をご覧ください。将来都市像の検討にあたり、事務局において、複数のキーワードというものを抽出しました。本日ご説明しました先程の市民アンケートの結果、昨年度に実施しましたワークショップやオープンハウスといった結果など

から、「健康」、「子育て」、「暮らしの安全」、「都市と自然が両立した住環境」をキーワードとして記載しています。そして、これまで本市が大切にしてきたものとして、過去の将来都市像などから、「文化」、「自然」、「協働」といったキーワードを抽出しています。資料の下段ですが、これらのキーワードを踏まえた複数の将来都市像の事務局案、イメージを作成しました。次回の審議会の議題として、将来都市像について、ご審議をいただきたいと考えていますので、あくまで参考でございますが、資料に記載の案を記載しました。ここで1点、委員の皆様にお願ひがあります。追加でお配りした基本構想案に関するご意見というものになります。本日の資料を参考に、委員の皆様から将来都市像案について、ご意見等いただきたいと考えています。新たな案のご提案や、例えば事務局案に対するご意見、これとこれをくっつけた方が良いなど、どのようなご意見でも構いませんので、皆様からのご意見をいただきたいと思います。皆様からいただいたご意見等は事務局の方で整理して、次回の審議会において、将来都市像について、ご審議いただければと考えています。大変恐れ入りますが、8月14日水曜日までに、EメールまたはFAXにて回答ご提出いただければと思っています。本日もお配りしました様式についてはメールでもお送りしますので、ぜひよろしくお願い致します。

説明は以上でございます。

○藤井会長：説明、ありがとうございました。本日は議題の中で、具体的な事業がどう進んでいるかという評価をしていただきました。その上で、時間軸が長いアウトカムという現在設定した取り組みの成果が上がっているかどうかを今後検討していきます。次期総合計画の策定に向けてというアンケート調査結果を踏まえ、今後の市川市の方向性を皆様方と一緒に考えていきたい、それにあたっては、各種様々な調査の中からキーワードを事務局として考えて、それに沿った形で、将来25年の絵姿を目指して、25年にわたる基本構想を作ろうとしています。現在、他の自治体でも基本構想を策定していますが、時間軸が少しずつ短くなってきているのが他の自治体の特徴です。大体概ね10年や短いもので8年ぐらいとなり、市の総合計画として考えています。ただ、それでは短期の取り組みと近い計画になってしまい、市川市の将来といったところを考えるのは難しく、市川市としては、カーボンニュートラルに相当するような時間軸の長い方向性をしっかりと見定めたい。うえで、このまちをどういうふうに変えていくのか、過ごしやすい、働きやすい或いは学びやすいも含めて、市民活動として生き生きと生活できるような方向性を少し時間軸が長い25年という絵姿を考えてみよう、そういった面で、中高生、若い世代がこの市川市のイメージをどう考えていただくことについても、アンケートを実施するうえで、前回の審議会でのご意見を踏まえ、今回集計がまとまったところです。事務局としては、具体的な施策メニューを積み上げていくと、時間軸の短いものに重きを置くことが多くなりますので、委員の皆様が各分野の見地から、こんなまちづくりを、こういった現状課題に対してこのような方向性は考えてみてはどうかといったご意見等をいただければと思います。当日配布資料の一番下に※印では、ご提出がない場合はご意見なしとさせていただきますと記載がありますが、ぜひ皆様、宿題という理解をしていただけるとありがたいなと思います。基本構想をまず第一歩として、皆で考えていこうをこの審議会でも意識していただきたいと思いますので、そういった意識で取り組んでいただけるとありがたいなと思います。ご意見、ご質問はありますでしょうか。

○松丸委員：資料6の2ページをご覧ください。将来都市像の案がいくつかありますが、「～なまち いちかわ」と共通で記載されていますが、こちらは固定なのでしょう。また、「いちかわ」の表記は平仮名が望ましいと考えていますでしょうか。その他、漢字やアルファベットの表記などがありますが、平仮名にしている意味はあるのでしょうか。

○染谷課長：平仮名で「いちかわ」と全ての案の文末につけているのは特にこれではいけないということではもちろんありません。自由な発想、ご意見をいただければと思っています。現在の基本構想が「ともに築く 自然とやさしさがあふれる文化のまち いちかわ」となっており、これをもとに作っていますので、「いちかわ」とつけていますが、ある、なし、平仮名表記を含めて、自由にご意見を頂戴できればと思っています。

○藤井会長：平仮名ですと、優しいイメージが伝わってきます。我孫子市の総合計画を策定した際に、「我孫子」は難しい漢字ではありますが、平仮名であると我孫子の良さは伝わらない、よりメッセージ性を持たせるために、「我・孫・子」とし、自分からそして将来に向けて、子世代が繋がるように、我孫子のイメージをその「・」に全部込めようという話もありました。この「いちかわ」がないと成り立たないのか、「いちかわ」という文言を入れたほうが良いのかも考える必要があります。現在、柏市で総合計画を策定しているところですが、「柏」という文言がないと、どこの市か分からない、より地域性をメッセージに入れるべきなど、同じような議論がされています。委員の皆様、自由な発想でご提出いただければと思います。その他、ご意見、ご質問はありますか。

それでは、今回初めて審議会にご出席いただいたことも含めて、朽木副会長より総括及び講評をよろしくお願いします。

○朽木副会長：本日、1つ目の議題である実施計画の評価については、非常に良好な結果であったと思いますので、これについては特に問題はないかと思います。

先程、委員の皆様に対して宿題が出ましたが、こちらの宿題に繋がるものとして、資料に関連した議論の中で、興味深い話がありました。1つ目は交通の利便性の良さが市川市の特徴として皆様が挙げているわけですが、江口委員のご発言の中で、例えば大柏、曾谷、国府台などの一部の地域においては、十分な評価に至っていないところもあり、そういった地域では、道路の狭いなど市川市の努力で改善できること、一方、交通の利便性が高く、都市に近いという事実は市川市が動くことができるわけではなく、これ以上都心に近づくことはできないので、道路の狭さなどの部分は、次期総合計画の中で改善が可能な部分であろうと感じました。

また、2つ目として、大場委員やほとだ委員の発言の中で、「文化」というキーワードがありましたが、今後どう捉えていくのかというのも重要な問題になっていくだろうと思います。藤井会長の発言の中で、文化の時間軸という視点を入れると、時間軸の長い観点で、これまで培われてきて残されてきた文化と伝統というものをしっかりと受け継いでいくということも大事ですが、同時に創造的で都会的な新しい文化というものもあり、そういった生活ニーズに直結するような短い時間軸の中でも文化ということも考えていく必要があるのではないか、この「文化」に対する皆様の考え方は非常に多義的であり、次期基本構想へ繋がっていくと良いのでは感じました。

次に、3番目として、「教育」についてですが、学びやすい環境があるという中学生の

回答が非常に面白いと思いましたが、一方で、長年の課題である子育て環境の充実は満足度が随分高くなってきているので、十分な施策は浸透してきているだろうけれど、まだまだニーズが高いことが資料やアンケート結果からもわかりました。今後、教育と子育て環境の位置付けをどうしていくのが1つの柱になっていくだろうと思っています。

最後に、自治会や地域活動のあり方について、会長の発言にもありましたが、強く共感しました。大学の今の立場になる前ですが、地域連携推進センター長を長く務めまして、地域連携に関わっていたときに、他市と比べると、例えば中間支援組織がないなど、市民活動や地域コミュニティに少し弱いところがあるのかなという印象が残っています。そのコミュニティをどうやって作っていくのか、自治会をどうやって育てていくのか、地域活動、市民活動というものをどうやって活性化させて、さらに繋げていくのが課題となり、将来の基本構想に繋がっていく話になるだろうと思いました。雑駁な感想も含めて、このような形で総括をさせていただきたいと思います。

○藤井会長：ありがとうございました。事務局としては、これから皆様から提出された将来都市像の案をベースに、計画の方向性の具体的な検討に入っていただくとと思いますが、地域性を整理するなど本日のご意見やアンケート結果を踏まえたうえで、ご検討いただければと思います。

それでは、本日の議題はすべて終了しました。

最後に、事務局から連絡事項はありますでしょうか。

○事務局：長時間にわたりご審議いただきありがとうございました。次回、第2回の審議会については、10月開催を予定しております。

詳細が決まり次第、ご連絡をさせていただきますので、ご出席のほどよろしくお願いいたします。本日の会議は以上となります。皆様、ありがとうございました。今後も引き続きよろしくお願いいたします。